

前進する明るい未来を考える

政治家のことばや約束を問うよりも自分たちからでも「ほんとうに大切なものはなにか」を考え方の基本にして明るい未来に向けて肯定的に前進することから始めてみよう

前進1 ■ ゲートキーパーネットワークの構築

生きる支援として各世代各分野ごとの連携と「補助的な役割と自立支援の役割」をベースに構築し相互協力し前進する

前進2 ■ 若者の自主・自立を応援

商店街・商業スペース・空家などを活用し若い人達の元気で柔軟な発想を活かせる場の提供と、ビジネスチャンスの手伝い、ひいては若者の個性を伸ばせる「特徴のあるまちづくり」へ挑戦し前進する

前進3 ■ 次世代リーダーの育成

時代を担う若者に政治や社会の仕組みを理解する機会や場所を草の根的に展開提供し、各分野においての指導者育成に取り組み、よりよい未来に向けて前進する

前進4 ■ ゾーン30(道路整備)の推進

安全安心を実感できるまちづくりの一環として危険区域の最高速度30km/h規制の推進。特に通学路において検証し前進する

前進5 ■ 教育の原点を知る

時代背景により変化している自分たちの教わった教育の違いを理解し、本来あるべき教育の原点を探り現在教育への投げかけをし前進する

前進6 ■ ボランティアネットワークの構築

各ボランティア団体のネットワーク構築により、共通した目的を一層効果的に実現に向け前進する

前進7 ■ 補助金に頼らないまちづくり運営組織の発足

広い範囲の使途が可能な明るい豊かなまちづくりのための組織を検討。発展的に既存概念にとらわれない自立組織としての役割をもたせ、特に複雑な社会の仕組みやシステムにより達成できない支援を支援する組織を発足し前進する

発行日2012/8/25

討議資料 第4号

和泉を守る門番

ゲートキーパー宣言

森ひさゆき



地球をのぞいてごらん
今の自分がみえるから

ゲートキーパーとは

本来「門番」という意味ですが、もっとも身近で悩みや話しを聞いて、必要な支援につなげ見守る人のことです。いわゆる生きることを支援できればと考えている人と解釈しています。

森ひさゆき後援会

会長 藤木厚一

事務所 和泉市鍛冶屋町344-2

TEL 0725-55-3799

FAX 0725-55-4288

Mail info@morihisayuki.com

<http://www.morihisayuki.com>



プロフィール

和泉市浦田町に生まれ現在鍛冶屋町在住、55歳、妻と子供二人、愛犬チビ・ラメ、有限会社テクノ工業取締役、少林寺拳法和泉南道院長(大拳士6段)、前衛書道家、南池田小学校PTA会長、大阪芸術大学グループ塚本学院校友会常任理事、大阪芸術大学武道連合会初代会長、元大阪芸術大学・大阪商業大学堺高等学校・阪南大学高等学校非常勤講師、1995年堺青年会議所副理事長

「ほんとうに大切なものはなにか」 を考え方の基本にする。

■ 時の太閤秀吉が、美しいと評判の庭いっぱい咲く朝顔を見たいとある御人に申しつけました。ある御人は快く受け入れ、秀吉は朝早く出かけました。しかしそこには庭いっぱい咲く朝顔はなく、茶室の床に一輪の朝顔が生けてありました。

これはものごとの本質をみつめ、「ほんとうに大切なものはなにか」を問うた堺の茶人千利休の話であります。たくさんの朝顔と一輪の朝顔、実に考えさせられてしまいます。

時代背景にもとづいて今「ほんとうに大切なものはなにか」を考ようとするとき、前述する一輪の朝顔にもものごとの本質があるようにおもいます。朝顔を語るときいっぱいの朝顔はきれいだけれど、一輪の朝顔の集まりであることを知ればおのずと必要なものが見えてきます。

太閤秀吉が朝早く到着した庭にはいっぱい咲いていた朝顔がすべて摘み取られていたそうです。そのかわりの茶室の一輪の朝顔だったので。ものごとの本質を知るためにあえて多くを捨ててしまったのです。

そのためには大きなリスクも背負わなければなりません、今ほんとうに求められている必要なものを選びださなくてはなりません。

床に生けられた一輪の朝顔、「ほんとうに大切なものはなにか」を考え方の基本にしたいものです。

政治の世界もたくさんの積み上げられたことの中から一輪の朝顔を求める時期が来ているように思えます。

まずは原点に戻る決断と「ほんとうに大切なもの」だけを残す作業がどれだけ進むかが今後の日本の将来に大きく関わってくるとおもいます。



「こどもと子育て世代の助成」 を考える。

情報が飛び込んできた。南河内郡太子町の6月議会で下記助成が決定されました。こどもの医療費助成制度を入院、通院も中学校卒業まで、妊婦検診助成51,200円が116,840円に、子どもへの3ワクチン（子宮頸がん、ヒブ、肺炎球菌）が無料。医療費助成制度と妊婦検診助成は大阪府内最高水準の助成ということになります。

拍手喝采であります、同じ条件があたえられない町もあるということがみえてきます。各地方自治体が独自で取り組む行政の問題であるといえませんが、日本の将来を担う「こどもと子育て世代への助成」が同じ条件のもとで行われていないことにいつも不公平感を抱いています。未来へ向けての助成は大きな財産づくりになります。

深刻な少子化問題があるなかで今後の未来像を描ききれずにいる地方自治体は真っ先にこの問題に取り組み、また各地方自治体同士の連携を密にして同じ条件のもとで助成できる基盤と情報共有のシステムを構築することが最優先課題であるとおもいます。